

栗原の稲作通信

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

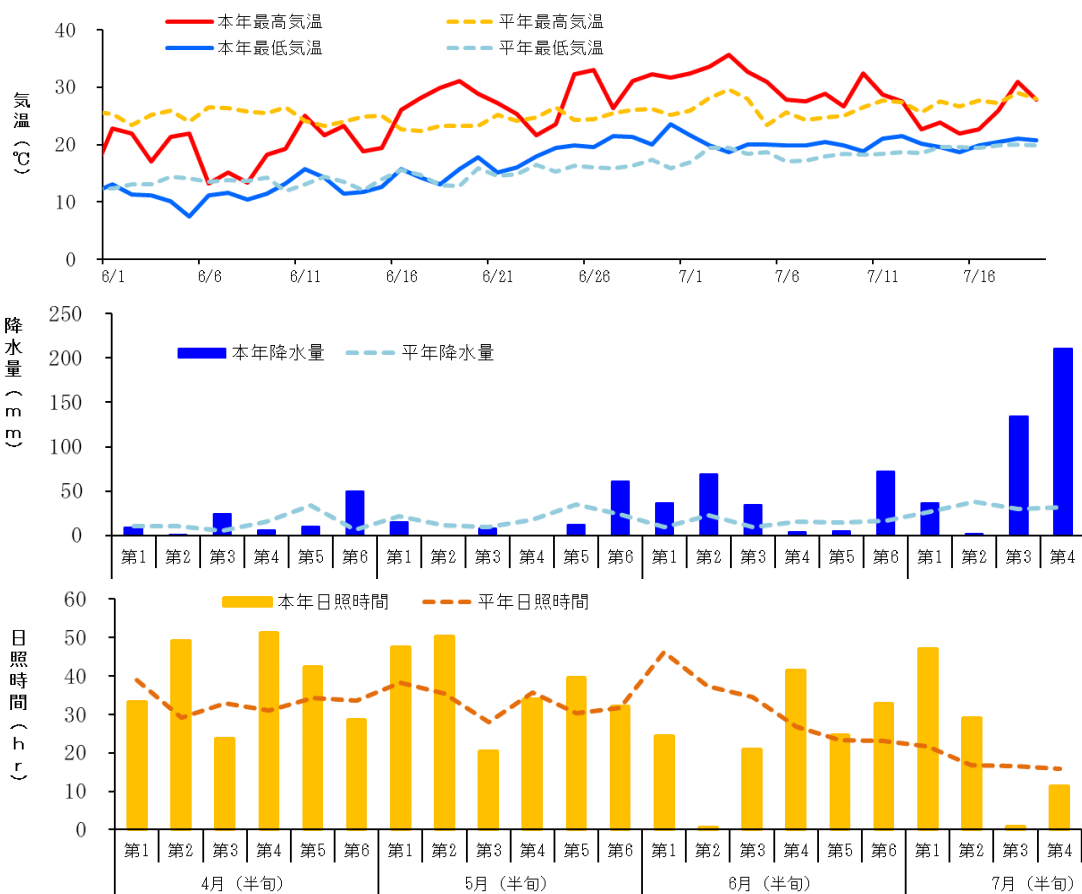
令和4年 第6号 令和4年7月22日発行

出穂期 北部平坦部・中生品種は「8月5日頃」の見込みです。
穂いもち防除 予防防除のため、水面施用剤による防除を行いましょ。う。
草刈りは、出穂10日前以降は控えましょ。う。

7月15日から16日の大雨に伴う技術対策は、5ページをご覧ください。

気象経過（アメダス築館）

- ・平年と比較し、7月上旬の気温は高く、降水量はやや少なく、日照時間はかなり多く経過しました。
- ・7月中旬の気温は低く、降水量は多く、日照時間は少なくなりました。特に、7月15日から16日にかけて大雨となりました。



* 点線は平年(過去5か年平均)

東北地方1か月予報（期間：7/23～8/22）

※令和4年7月21日仙台管区气象台発表抜粋

予報のポイント

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の日照時間は平年並か多い見込みです。

予想される向こう1か月の天候（東北太平洋側）

平均気温：高い見込み
降水量：ほぼ平年並の見込み
日照時間：平年並か多い見込み

生育経過（7月20日現在）

■生育調査ほ（移植）

- ・ひとめぼれでは、草丈は平年より長く、莖数は平年並み、葉数は平年並みで推移しています。
- ・築館ひとめぼれでは、減数分裂期に達しており、若柳・一迫ひとめぼれはまもなく、減数分裂期に達するものとみられます。

表1 生育調査ほ調査結果（7月20日現在）

品 種	地区	田植日	草丈(cm)			莖数(本/m)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
			本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	築館 北部平坦	5/14	87	113	117	586	108	105	12.3	0.7	0.1	39.5	-4.8	2.9	59	-138	-102
ひとめぼれ	若柳 北部平坦	5/20	80	109	108	605	98	93	11.6	0.0	-0.3	35.6	2.6	0.3	29	-41	-13
ひとめぼれ	一迫 西部丘陵	5/12	68	95	-	370	83	-	12.3	0.9	-	38.8	-1.6	-	14	-77	-
ひとめぼれ	管内平均	5/15	78	106	-	521	97	-	12.1	0.6	-	38.0	-1.2	-	34	-86	-
つや姫	築館 北部平坦	5/24	70	94	100	367	79	73	12.4	0.6	1.0	44.1	-0.6	3.1	0.7	-0.6	-2.2
だて正夢	築館 北部平坦	5/18	86	109	-	394	91	-	12.1	0.7	-	40.1	0.3	-	5	-7	-
金のいぶき	一迫 北部平坦	5/6	81	111	-	418	98	-	12.8	-	-	37.1	6.2	-	13	-	-
萌えみのり	金成 北部平坦	5/19	75	91	99	447	81	85	11.8	-0.8	-0.3	45.2	1.1	1.3	6	-128	-59

注1:平年値は過去5か年平均。

注2:一迫ひとめぼれ、築館だて正夢は、令和2年から調査農家変更のため、平年値はなし。

注3:金のいぶきは、令和3年から調査開始のため、平年値はなし。葉数は本年より調査開始。

注4:ひとめぼれの管内平均は、築館、若柳、一迫3か所の平均値。

■直播展示ほ（志波姫の乾田直播ひとめぼれ）

- ・生育は概ね順調に経過しています。

表2 直播普及展示ほ調査結果（7月20日現在）

品 種	播種日	草丈(cm)	莖数(本/m)	葉数(枚)	葉色(GM値)	幼穂長(mm)
	本年	本年	本年	本年	本年	本年
ひとめぼれ	4月26日	62	572	11.0	39.4	0.0

注1:乾田直播展示ほは、本年から調査開始のため、前年値及び平年値はなし。

今後の管理

■出穂予想

- ・今後の天候が平年並みで経過すると、中生品種の出穂期は8月5日頃（北部平坦部）の見込みです。

■生育ステージの把握 ～ ほ場ごとに幼穂長を確認して生育ステージを把握しましょう ～

表3 幼穂形成期と減数分裂期の目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	3～12cm	-10～0cm	15～10日

■追肥 ～ 極端な葉色低下を避けるため追肥を行きましょう ～

- ・極端な葉色低下により玄米品質が低下するので、品種毎に適切な追肥を行きましょう。
- ・有機入り肥料を追肥に使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので早めに施用しましょう。
- ・一発型肥料を基肥に使用した場合でも、葉色が低下しているほ場では追肥を行きましょう。

表4 追肥時期の生育量と追肥量の目安

*生育量が目安の範囲内～下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm）			減数分裂期（幼穂長3～12cm）		
	茎数 (本/㎡)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)	茎数 (本/㎡)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)
ひとめぼれ	470～530	38～40	1 kg	450～500	35～37	1 kg
ササニシキ	720～760	34～36	(しない)	550～580	32～34	1～1.5kg
つ や 姫	550～580	35～37	2 kg	-	-	(しない)

★だて正夢の追肥量（窒素成分量/10 a）

- 基本は「**減数分裂期2 kg**」
- 茎数が不足する場合は、
「幼穂形成期1 kg + 減数分裂期1 kg」
- だて正夢は、ひとめぼれ等の他品種より茎数が少なく、葉色が濃くなる傾向にあります。生育量が表の目安を超えている場合を除いて、基本的に追肥を行いましょ。

表5 だて正夢の生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	64～70	76～82
茎数 (本/㎡)	390～460	380～420
葉色 (葉緑素計)	40～42	37～39

★金のいぶきの追肥量（窒素成分量/10 a）

- 基本は「**幼穂形成期1 kg + 減数分裂期1 kg**」
- 金のいぶきの葉色は、ひとめぼれと比較して淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下します。安定した収量を確保するために、追肥を実施しましょ。

表6 金のいぶきの生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	65～70	80～85
茎数 (本/㎡)	570～620	490～540
葉色 (葉緑素計)	33～35	30～32

●水管理

- 幼穂形成期以降の基本的な水管理は右の表のとおりです。

表7 幼穂形成期以降の水管理

生育ステージ	水管理
幼穂形成期	中干し終了→走り水で徐々に入水
～穂ばらみ期	間断かんがい ※倒伏が心配される場合は飽水管理
出穂始～穂揃期	浅水管理
登熟期	間断かんがい※出穂30日後に落水

◎低温時の水管理

- 幼穂形成期～減数分裂期にかけて、日平均気温20℃以下が続く場合、最低気温が17℃以下となる場合は、障害不稔の回避のため、深水とします。

◎高温時の水管理

- 出穂後に高温が続く場合、白未熟粒により品質が低下するおそれがあります。
- 高温時には走り水や飽水管理により、常に土壌を湿潤状態に保ちましょ。

◎落水時期

- 刈取り作業を容易にするため、早めに落水する傾向にありますが、早期落水は米の整粒歩合が低下します。品質向上のため、落水時期は、排水が良好なほ場では出穂後30日を目安にしましょ。

●病害虫防除 ＊発生量等は発生予報第4号（宮城県病害虫防除所・6/24発行）に基づいています。

▷【いもち病】 | 防除情報第5号が発表されました(宮城県病害虫防除所・7/12発行)。

- ・県南部で本田における葉いもちの初発が確認されました。
- ・早期発見に努め、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除してください。

いもち病防除

- 穂いもち予防のため、適期に水面施用剤による防除を行いましょう。
- 「葉いもち」が確認された場合は、直ちに茎葉散布剤による防除を行いましょう。
- 「穂いもち」防除を茎葉散布剤で行う場合、出穂直前、穂揃期、その7～10日後の3回実施しましょう。

▷【紋枯病】 | 発生量は「平年並」の予報

- ・要防除水準を超えた場合は、穂ばらみ期から穂揃期に防除を行いましょう。
前年発生が多かったほ場では、特に発生状況に注意が必要です。また、高温多湿で発生が増加します。
要防除水準：穂ばらみ期の発病株率 ひとめぼれ18%以上

▷【稻こうじ病】 | 発生量は「やや少」の予報

- ・銅剤による防除適期は、出穂10～20日前です。穂ばらみ期に降雨日数が多いと発生しやすくなります。

▷【斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）】 | 防除情報第6号が発表されました(宮城県病害虫防除所・7/12発行)

- ・水田周辺の雑草地や牧草地、畦畔では斑点米カメムシ類が平年に比べて多く確認されています。
- ・水稻の出穂10日前までに水田周辺草地の草刈りを実施してください。
- ・薬剤防除は、「穂揃期+その7～10日後」の2回防除が基本です。
本田内にイヌホタルイやノビエが発生している場合は、1回目の薬剤散布を出穂始に早めましょう。

▷【イナゴ類（コバネイナゴ）】 | 発生量は「平年並」の予報

- ・大きくなってからの薬剤防除は効果が低下するので、多発している場合は速やかに防除しましょう。

.....
■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限等を確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

.....

○令和4年7月15日から16日の大雨に伴う技術対策について

栗原市内では前線や暖かく湿った空気の影響により、7月15日から16日にかけて大雨となり、築館・若柳・瀬峰・志波姫地区等で浸水・冠水が発生しました。また、今後も降雨が予想されており、身の安全を確保した上で、下記の対策を実施してください。

- (1) 浸冠水した水田では、排水溝や側溝等に詰まったゴミを除去し早期の排水に努める。
- (2) 冠水や浸水した稲は体内の水分を失いやすい状態になっているので、急激な落水は避けるようにする。
- (3) 生育が遅れ、葉色が濃くなった場合は、いもち病が発生しやすいので、ほ場を観察し、農薬散布等による防除に努める。
- (4) 浸水により生育が遅れた場合、イネツトムシが多発する可能性があるのではほ場を観察し、農薬散布等による防除に努める。
- (5) 黄化萎縮病が発生した水田ではいもち病が発生しやすいので、ほ場を観察し、農薬散布等による防除に努める。
- (6) 白葉枯れ病は低湿地で発生しやすく暴風雨で発病を助長するのでほ場を観察し、防除に努める。
- (7) 生育が遅れて葉色が期待葉色値よりも濃くなった場合は追肥を見合わせる。
- (8) 生育時期別の冠水日数と減収歩合は下表のとおり。

表 水稻における生育時期別の冠水日数と減収歩合（％）

被害時生育段階	冠水日数（日）				備考
	1	3	5	7	
幼穂形成期	-	30	60	70	幼穂枯死が多い
出穂期前13日	25	80(70)	90(70)	100(70)	二段穂を生ず それが稔実すれば補償 が見られる。
出穂期前10日	75	100(70)	100(70)	100(80)	
出穂期前7日	40	80	95(85)	100(95)	

農林省統計調査部 農林17号 ()内：二段穂が稔実した場合

「農業災害ハンドブック（農作物気象災害技術対策指針）」平成2年3月 宮城県農政部より抜粋